

2014年3月期 中間決算概要（連結）

1. 業績の概況

当中間連結会計年度（自 2013年4月1日 至 2013年9月30日）（単位：億円）

	2013年度 上期実績 A	2012年度 上期実績 B	増 減		2013年度 通期見込
			金額 A-B	% A/B*100	
営業収益	3,159	12,870	▲9,711	24.5	7,749
高速道路事業	2,892	12,585	▲9,693	23.0	7,197
(料金収入)	2,612	2,565	47	101.8	5,082
(道路資産完成高等)	279	10,019	▲9,740	2.8	2,115
関連事業	267	285	▲18	93.6	552
(休憩所事業)	219	226	▲6	97.0	422
(その他)	47	59	▲11	80.4	130
営業費用	3,005	12,680	▲9,674	23.7	7,749
高速道路事業	2,771	12,435	▲9,664	22.3	7,237
(道路資産賃借料)	1,808	1,780	27	101.5	3,589
(道路資産完成原価)	274	10,014	▲9,739	2.7	2,149
(管理費用等)	688	640	47	107.4	1,499
関連事業	234	245	▲10	95.7	512
(休憩所事業)	185	184	0	100.5	375
(その他)	49	61	▲11	81.2	137
営業利益	153	190	▲36	80.9	0
高速道路事業	121	149	▲28	80.8	▲40
関連事業	32	40	▲7	80.7	40
経常利益	160	194	▲33	82.6	11
中間（当期）純利益	102	116	▲13	88.7	10

※1 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※2 2013年度通期見込の高速道路事業の道路資産完成原価には、高速道路に係る利益剰余金を活用して実施する事業（40億円）が含まれています。

（注）事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産に照らし、以下のように事業区分を行っております。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、カードサービス事業等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

- ・ 安全性向上3カ年計画
トンネル天井板や換気ダクトなど、道路上に設置した重量構造物の撤去や二重の安全対策を進めました。
- ・ ネットワークの整備
一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）
茅ヶ崎ジャンクション～寒川北インターチェンジ間5km 2013年4月14日開通

(上期業績)

- ・ 営業収益は2,892億円（前年同期比9,693億円減）となりました。^(注)
このうち、通行料金収入は2,612億円（同47億円増）でした。
交通量は堅調に推移し、1日あたりの取扱通行台数は195万台（同3.9%増）でした。
- ・ 営業費用は2,771億円（同9,664億円減）となりました。^(注)
このうち、道路資産賃借料及び道路資産完成原価を除いた費用は688億円（同47億円増）でした。この費用の増加は、主に、笹子トンネル天井板落下事故の発生を受けて事故の再発防止のために実施した安全点検及び補修に係る費用を含む、維持修繕費の増加によるものです。
- ・ 営業利益は121億円（同28億円減）となりました。

(注) 営業収益及び営業費用の大幅な減少は、前年同期において新東名高速道路ほかの開通による道路資産完成高及び道路資産完成原価を計上したことの反動によるものです。なお、当中間連結会計期間においては、道路資産完成高及び道路資産完成原価の変動（それぞれ前年同期比9,739億円減）は損益に影響していません。

(2) 関連事業

(実施した施策)

- ・ 伊勢自動車道 嬉野パーキングエリア（上り）リニューアルオープン 2013年4月26日
- ・ 東名高速道路 富士川サービスエリア（上り）を一部リニューアルオープン 同年8～9月
（富士川サービスエリアは下期にグランドオープン予定）
- ・ 夏季キャンペーンの展開
2013年7月20日から約2カ月間にわたり、路線ごとにテーマを設定し、テーマに沿った限定商品を販売する夏季キャンペーンを展開しました。

(上期業績)

- ・ 営業収益は267億円（前年同期比18億円減）となりました。
これは、新規事業及び子会社における外販拡大の取組みによる増収（同9億円増）があった一方、受託工事完成高（同20億円減）や、新東名の開通効果が一段落した休憩所事業の売上（同6億円減）が減少したことによるものです。
- ・ 営業利益は32億円（同7億円減）となりました。

以上